

酪農の未来を考える 地域交流牧場の集い

6月12、13日くずまき高原牧場を主会場に地域交流牧場全国連絡会の全国研修会が開かれました。

12日は、くずまき高原牧場まつりを見学した後、基調講演やパネルディスカッションが行われました。



パネルディスカッションで
意見を述べる中村町長⑤

「時代とともに変化する酪農」をテーマにしたパネルディスカッションでは、中村町長が「酪農を活かした地域おこしの実践」、増田知事が「いわての酪農振興の取り組み」、生源寺東京大学大学院教授が「酪農の過去・現在・未来」、同全国連絡会の広瀬会長が「地域交流をはじめたきっかけとこれからの展望」について述べました。

消費者の立場から意見を述べた山形市消費者連合会の五十嵐会長は「安全は技術的なもので、安心は精神的なもの。生産現場での消費者との交流によって農業のもつ意味や酪農に対する理解が得られる。消費者は要求だけではない。情報の共有によって、お互い尊重し合う、いい関係を」と呼び掛けていました。

町村合併五十周年に思う

七月十五日で旧葛巻町、江刈村、田部村の三町村が合併してから五十年が経過する。旧町村意識もなくなり、一丸となって町づくりに取り組んでいる中で、また国では合併を推進している。

我が町は、先人が築いた町づくりの上に新たな発展を期して、葛巻町として合併五十周年を迎えることができた。先人の遺業を顕彰し、町民の功績をたたえるべく十五



日に式典を挙げる。

町の発展と共に歩んできた第三セクターの(社)葛巻町畜産開発公社は創立三十周年、葛巻高原食品加工(株)は二十周年を迎えた。

町の元気印の情報を発信し、雇用拡大と若者の定着、地域経済の活性化に貢献してきた同セクターと、この際葛巻町らしく式典は合同で挙行することとした。式典終了後は「協働のまちづくりについて」の講演会を計画している。

これを契機に、町も第三セクターも一層の飛躍を期したい。

住民大会に260人 林道の早期完成願う

緑資源幹線林道事業促進住民大会(岩手県緑資源特定森林圏整備推進協議会など主催)は六月八日、くずまき高原牧場もく・木ドームで開かれました。

大会は、同事業の葛巻・田子線の進捗率(四二・一%)が他の二路線に比べ低いことから初めて開催されたもので、本町や関係町村の受益者など約二百六十人が早期完成に向けた取り組みを決議しました。



体験発表で林道の早期完成の必要性を訴える
外久保真雄さん